

# 第1学年 生活科学習指導案

日時 令和4年度11月18日(金)

第5校時 13:15～14:00

対象 第1学年2組 25名

1 単元名 「たのしいあきいっぱい～あきまつりをひらこう～」(全17時間)

## 2 単元の目標

- ・秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができる。
- ・自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするすることができる。

## 3 単元設定の理由

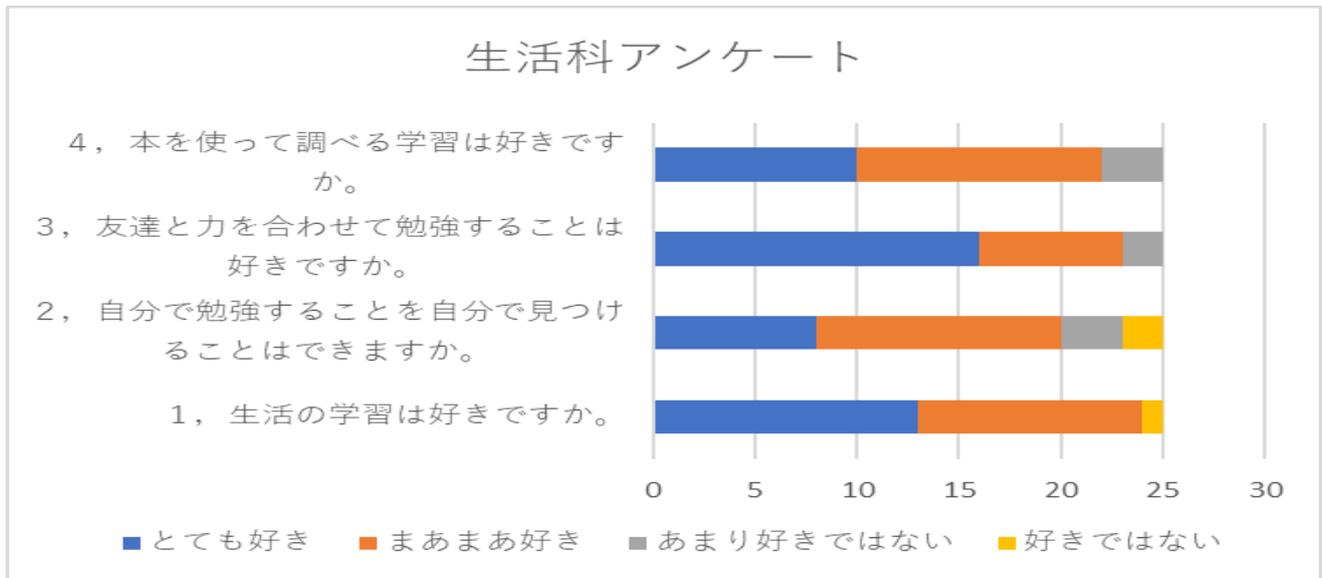
今まで児童は、「なつがやってきた」の学習で、夏の生き物や食べ物、遊びについて考えたり、実際に土手へ行って地域に住んでいるゲストティーチャーも交えて虫取りをしたりしてきた。また、グループごとに分かれて、夏遊びを企画し、遊んでいる。そこでは意欲的に意見を出すなど、児童自身が主体的に取り組む姿が多く見られた。しかし、経験や知識が足りずになかなか活動に取り組めない児童もいた。そこで、国語の学習で図書館を利用した調べ学習を行い、調べ方の学習を行った。体育の時間には、グループごとにめあてや練習内容を決めて活動し、振り返りをする活動を行い、児童自身が自分で活動内容を決める学習を行った。

この単元では、自分の住む身近な地域から材料を集めたり、これまでに学習してきたことを活かしたりして、秋のおもちゃ作りをし、「来てくれるお客さんを楽しませたい」という相手意識をもって秋祭りの準備をさせていく。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 色や形、匂いなど、秋の自然の様子と、夏の自然の様子との違いに気付いている。色や形、匂いなど、秋の自然の様子と、夏の自然の様子との違いに気付いている。 ② 身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。 ③ 季節によって楽しめる遊びが変わるなど季節によって生活の様子が変わること気付いている。	① 幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。 ② 秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。 ③ 秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。 ④ さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃを作っている。	① 秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。 ② 季節を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じ、これからは季節の遊びを楽しもうとしている。 ③ 自分で遊びを作り出す思い出す面白さを実感し、これからは遊びを作り出そうとしている。

## 5 児童の実態



本学級の児童のほとんどが「生活の学習が好き、まあまあ好き」と回答している。また、「友達と力を合わせて勉強することがとても好き、まあまあ好き」と答えた児童がほとんどである。実際に「なつがやってきた」の学習では、グループごとに生き生きと活動する姿が多く見られた。

しかし、自分で学習することを見つけれられるかという問いに対しては、消極的な回答をした児童が5名（学級の25%）いる。この児童たちは、なかなか自分の意見を積極的に伝えることが難しいため、グループ活動時の友達とのかかわりや教師の言葉掛けによって意見を伝えることができるようにしていく。

## 6 研究主題に迫るための手立て

本単元の学習を展開するにあたって、研究主題を以下のように捉えた。

「自ら課題を見出し」

→児童が「もっと楽しくしたい・もっと良くしたい」と課題をもって取り組む。

【知識・理解】

「課題解決に向けてやり通す」

→粘り強く最後まで活動に取り組んだり、試行錯誤したりし続けられる。

【学びに向かう力・人間性】

「心のふるさとづくり」

→町の資源を活用して、だれかのために楽しいおもちゃを作ろうと考えたり、作り上げたりする。

【思考力・判断力・表現力】

### (1) 児童が「もっと楽しくしたい・もっと良くしたい」と課題をもって取り組むための手立て

まつりのスローガンを考える活動でゴールイメージを最初に明確にすることで、児童が今やらなくてはいけないことを自覚できるようにしていく。遊びごとにグループ分けをした後に、準備計画を児童自身で立てさせ、それをもとに教師は助言を行っていく。

主体的対話的で深い学びとの関連



見通しを持つ



振り返って次へつなげる

### (2) 粘り強く最後まで活動に取り組んだり、試行錯誤したりし続けられるための手立て

児童それぞれがやりたい遊びを選択できるようにする。準備計画を児童自身に立てさせることで、今やるべきことを自覚させる。秋に関する本を教室に置いておくことで、いつでも調べられる環境作りを行う。自分たちの取り組みを振り返り、価値づけていくことで、達成感や満足感を得られるようにしていく。

主体的対話的で深い学びとの関連

 <b>協働して課題解決する</b>	 <b>知識・技能を活用する</b>	 <b>粘り強く取り組む</b>
---	---	--

(3) 町の資源を活用して、だれかのために楽しいおもちゃを作ろうと考えたり、作り上げたりするための手立て

秋祭りのおもちゃ作りに必要な木の実や落ち葉を集めることへの興味と意欲をスローガンをもとに引き出す。小岩公園へ秋探しに行くことを秋の材料や地域にある資源に興味を持つきっかけになるようにする。

主体的対話的で深い学びとの関連

 <b>興味や関心を高める</b>
--

7 単元の指導計画（全 17 時間）

	○学習活動	知	思	態	他教科との関連
1～2	○「秋といえば…」を話し合う。 ウェビング図を用いて思考を広げる。 ○「秋」をテーマにどんなことをしていきたいかを話し合う。	① ② ③	①		【国語】 児童と単元ごとの学習計画を立てる。
3～5	○「秋」を公園に拾いに行く。(2) ○見つけた「秋」を共有し、「秋」ではどんなことができるかを考える。 ・全体でやること ・グループごとに準備すること→「あきまつりをしよう」 ・あきまつりのスローガンを決める。	① ③	③		
6～16	○グループで担当の遊びを決める。 ○それぞれのグループごとに「あきまつり」の準備をする (5 時間程度)  【グループでの準備の流れ】 1 グループごとに、今日のめあてを決める。 2 準備作業 3 振り返り、次回やること  ○あきまつりのリハーサルを行い、振り返りをする。 ○他学年を招いて、あきまつりを行う。			① ② ③	【図工】 秋の自然物を使って工作を行う。  【体育】 グループでマット運動に取り組み、「今日のめあて」決め、「振り返り」を行う。
17	○秋を振り返って、「秋のうた」を作る。	①			

8 本時の学習（10 時間目/全 17 時間）

(1) 本時の目標

グループで協力しておもちゃを作っている。【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

学習内容	◇支援・手だて 【評価】
1 前時までの活動状況を振り返り、本時でやらなければならないこと	

<p>を確認する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローガンの一斉読み</li> <li>・店名決め</li> </ul> <p>2 グループに分かれ、「きょうのめあて」を確認する。(3分)</p> <p>3 グループごとに準備作業を行う。 (26分)</p> <p>4 グループごとに本時の振り返りを行い、発表する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の報告</li> <li>・お助けタイム</li> </ul> <p>5 次回やることを話し合う。(3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店名はこの時間に決めるよう指示を行う。</li> </ul> <p>◇店名が決まったグループから黒板に貼りだす。</p> <p>◇支援が必要なグループに「今日はどんなことをするのか」と言葉かけをしてめあてを考えるヒントとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあては、前時の終わりに次回何をしたいかを話し合わせる中で決めさせる。</li> </ul> <p>☆グループで協力しておもちゃを作っている。【思考・判断・表現】</p> <p>◇机間指導を行ないグループの進捗状況を把握し、子供の思考を促すように「どうしたらいいと思う?」といったような言葉かけを行う。教室に用意した秋の本を調べたり、お助けタイムで質問したりするよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日はどんなめあてで、どんな活動をしたのか」「やってみた結果どうだったか」等実態に合わせた言葉かけを行い支援する。</li> </ul> <p>◇できたことだけでなく、グループ内で困っていること、助けてもらいたいことも発表し、グループ間で共有し、話し合う。</p> <p>◇次のめあてを決めるために「次は何をしなければいけないのか」を考えさせる言葉かけを行う。</p>
---	--

【会場配置図】



#### 授業観察の視点

- ①教師の言葉がけは、相手を意識したおもちゃ作りに向けて効果的だったか。
- ②児童自身が学習計画を考えたことは、主体的に学習することへ効果的だったか。

## 【成果と課題】

- 自分たちで学習計画を立てることで、主体的に活動に取り組むことができた。
- 秋祭りでは最後のお客さんまで丁寧に対応するなど、「やり通す」姿が見られた。
- 児童が学習のサイクルを理解できたので、他教科でも汎用の学習過程を用いて学習をすすめることができるようになった。
- 生活科の授業で公園に秋探しに行ったことをきっかけに自然と関わりたいという思いを持ち、休日等に河川敷や公園に秋探しを進んで行うようになった。

#### 課題

- 学習過程の理解や取り組みに対する姿勢が児童によって差ができてしまった。どの児童もうまく活動に取り組めるような適切な支援を考えていきたい。
- 1人が1つのおもちゃを作り、ふりかえりを行う。自分が十分に楽しみ、「面白い！他の人にもやってもらいたい！」という流れを大切にしたい。